


報道発表資料

 平成 28 年 6 月 23 日
 独立行政法人国民生活センター

美容医療サービスにみる包茎手術の問題点

PIO-NET（パイオネット：全国消費生活情報ネットワークシステム）^(注1)には美容医療サービス^(注2)に関する相談が寄せられており、そのなかには施術によって危害^(注3)を受けたという相談も寄せられています。2012年6月に国民生活センターでは消費者トラブルの未然防止のために注意喚起を行いました。件数は依然として多いままとなっています。

美容医療サービスには女性から他方、過去5年度分の契約当事者が1,092件と半数以上を占めており、大きな減少はみられません。危害事例には手術後の痛みがひどい、機能障害など後遺症が生じた後、縫合不全で尿道欠損し、

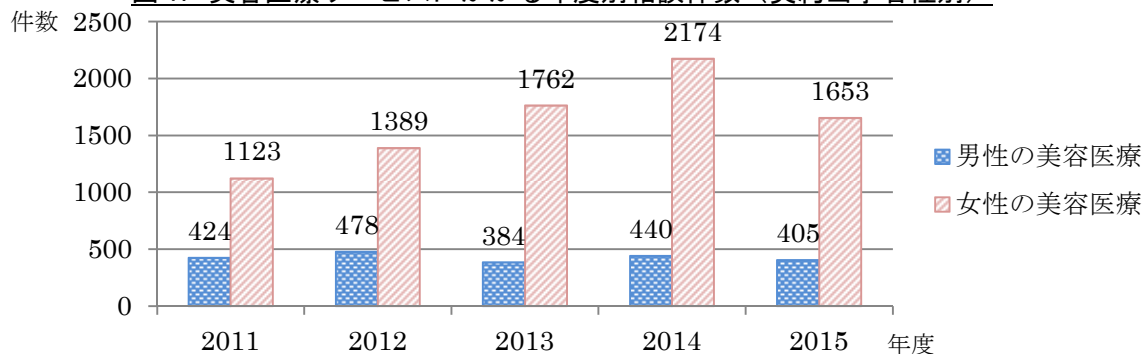

 別紙

さらに高額な自由診療や、即日施術を強く迫られたケースのほか、不要と思われる手術を受けたケースや、保険診療だと思って受けたものもみられます。

また、国民生活センター紛争解決委員会が解決を図り、結果の概要を公表した包茎手術に関する紛争が15件あるほか（2009年4月～2016年4月末）、東京地方裁判所で消費者契約法による契約の取消しを認めた判決（2009年6月）などがあります（別紙1参照）。

そこで、包茎手術に関する情報を提供し、消費者に注意をよびかけます。

図1. 美容医療サービスにかかる年度別相談件数（契約当事者性別）



(注1) PIO-NET（パイオネット：全国消費生活情報ネットワークシステム）とは国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する相談情報を蓄積しているデータベースのこと。

(注2) PIO-NETに「医療サービス」として分類登録されているもののうち、「美容」に関連する医療サービスで、医療脱毛、脂肪吸引、二重まぶた手術、包茎手術、審美歯科、植毛などに関して相談があったものを美容医療サービスとした。

(注3) PIO-NETにおける危害とは、商品・役務・設備に関連して、身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けた相談を指す。

(注4) 本報告において「包茎手術」とよぶ手術には、包茎手術の際に男性器増大もしくは長茎手術を併せて受けたものを含む。

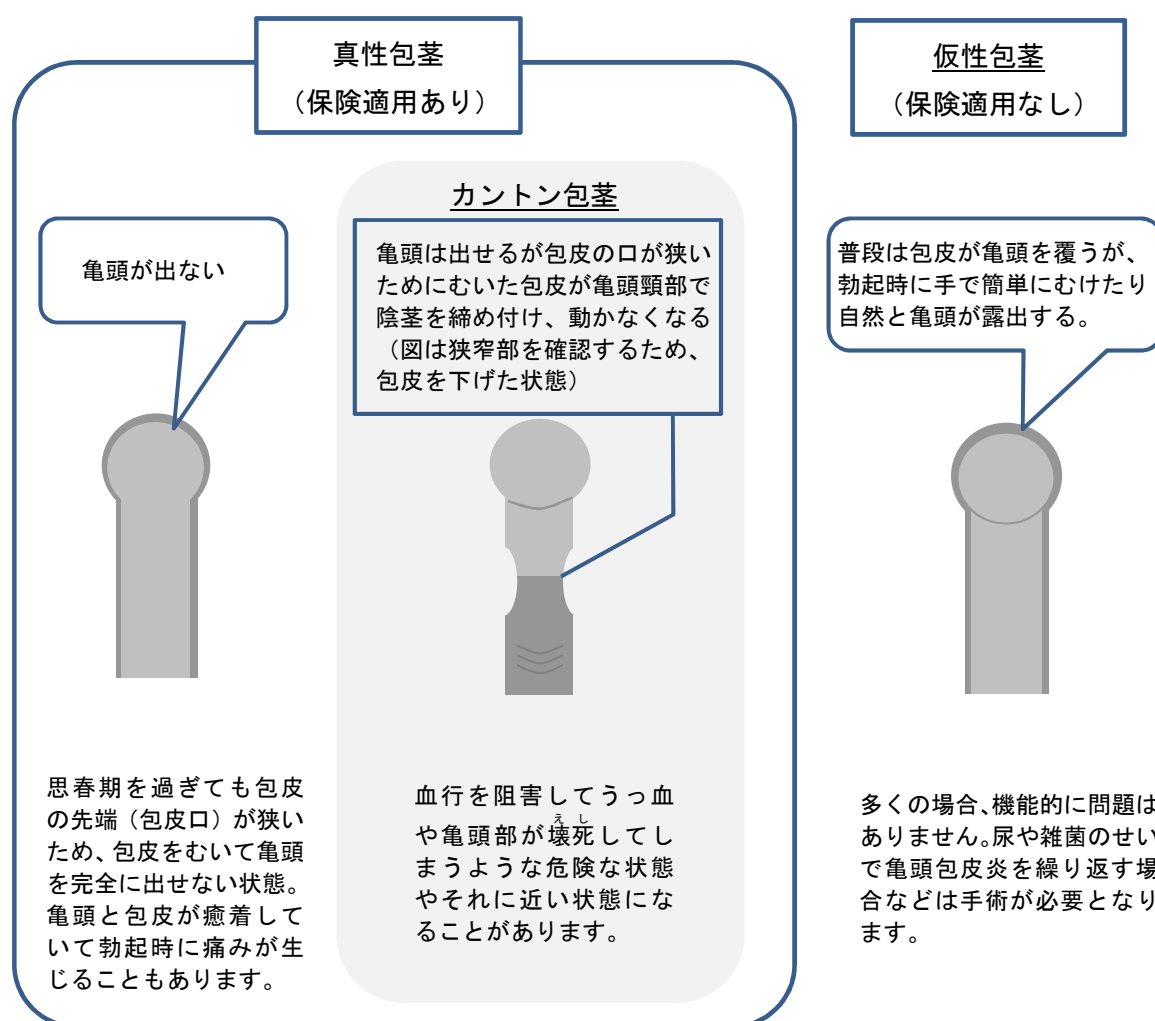
(注5) 形成外科 Vol. 58 No. 10「包茎専門美容外科クリニックにおける術後尿道欠損の1例」（渡辺頼勝ほか）1102

1. 包茎の種類と手術について

包茎とは、陰茎の亀頭が包皮で覆われたままである状態をさします。包茎には、真性包茎、^{かんどん}嵌頓包茎（以下、「カントン包茎」という。）、仮性包茎があり、真性包茎については亀頭が出ない、カントン包茎については陰茎の^{きょうさく}狭窄により血行が阻害されるなどの症状があります。

保険適用のある手術方法には、背面切開術と環状切除術があります。真性包茎、カントン包茎の場合で、保険医に受診した場合、保険適用があります。仮性包茎の場合には、保険適用はありません（図2、別紙2参照）。

図2. 包茎の種類・症状と健康保険の適用

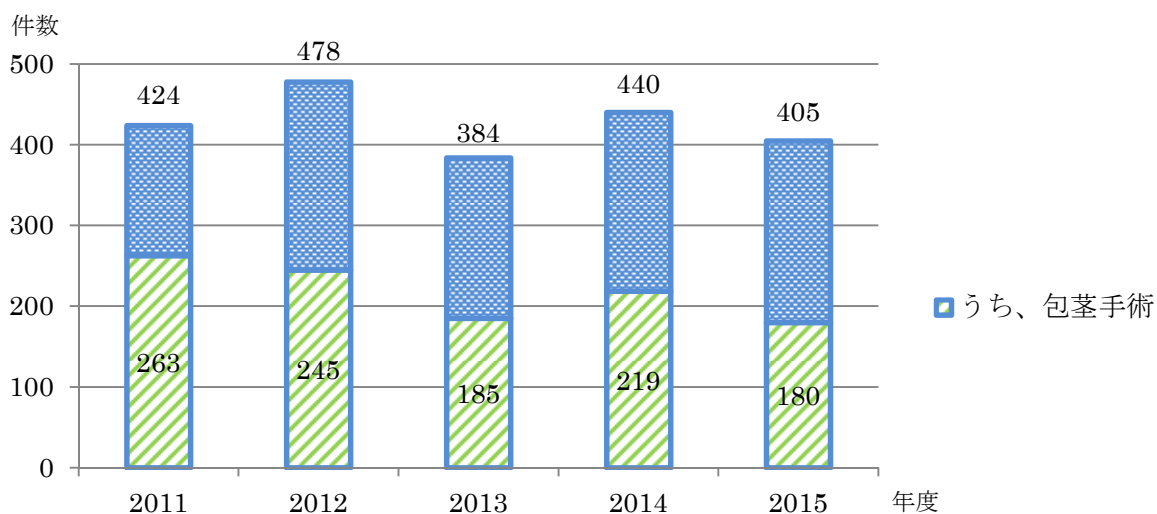


2. PIO-NET にみる包茎手術に関する相談概要

(1) 包茎手術に関する相談の傾向について

美容医療サービスに関する相談のうち、契約当事者が男性であるもの 2,131 件について分析したところ、半数以上の 1,092 件 (51.2%) が包茎手術に関する相談となっています。包茎手術に関する相談の内容をみたところ、契約・解約に関する相談が 758 件 (69.4%) と最も多く、次いで価格・料金に関する相談が 711 件 (65.1%) となっていました。役務品質や、安全・衛生に関する相談も 218 件 (20.0%) 見られました。

図3. 男性の美容医療サービスに関する年度別相談件数（契約当事者男性、n=2,131）

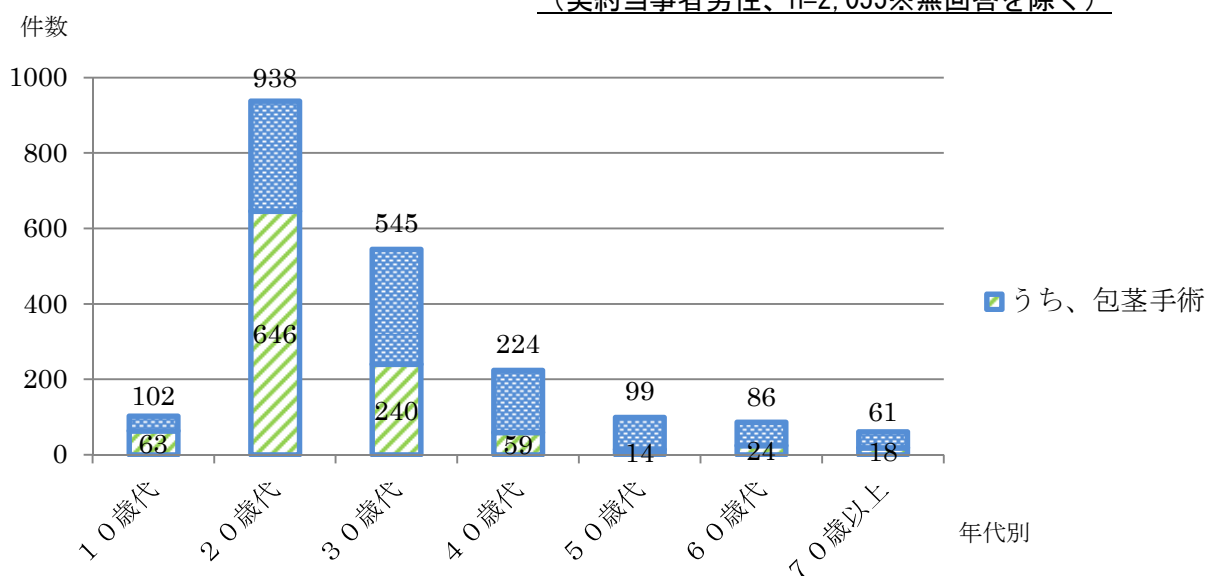


（2）包茎手術に関する相談の年代の傾向について

契約当事者の年代別にみると20歳代が多く、包茎手術に関する相談1,092件のうち646件と全体の約6割を占めていました。

図4. 男性の美容医療サービスに関する契約当事者年代別相談件数

（契約当事者男性、n=2,055※無回答を除く）



（3）包茎手術に関する危害について

包茎手術に関する危害事例は過去5年間で74件寄せられており^{（注6）}、内容を精査したところ、痛み、腫れなどの件数が多くみられましたが、なかには施術部分が裂けた、出血が続く、大量に出血した、組織の壊死という症状のほか、勃起障害や、射精障害などの性機能障害、

（注6）包茎手術に関する危害事例については、最初に起こりうる術後の症状をきちんと覚えていないことや、説明不足、もしくはその両方からくる理解不足によって不安・不満、不具合を感じている事例が含まれている可能性がある。

